

タイトル：第46回日本コミュニケーション障害学会

日時：令和2年5月30日（土）31日（日）

場所：東北大学川内北キャンパス

お知らせ内容：

事前登録開始が11月25日から開始となりました！

大会の情報は、大会の公式HP(<https://jacd46.secand.net/index.html>)や大会用facebookページ(<https://is.gd/9e3j7f>)にも掲載しておりますので、ご興味のある方はぜひ御覧ください。

大会企画

基調講演「認知症を支援する」長田乾先生（横浜総合病院）

特別講演「発達を支援する」本郷一夫先生（東北大学大学院教育学研究科）

教育講演Ⅰ「改めて脳科学からASDを理解する」渡部喬光先生（理化学研究所）

教育講演Ⅱ「生活習慣と脳」の川島隆太先生（東北大学加齢医学研究所）

【ランチョンセミナー】

1. 大井 学先生（金沢大学）「CCC-2を使ってみよう」
2. 井上 雅彦先生（鳥取大学）「ペアレントトレーニングの立ち上げ方」
3. 中川 雅文先生（国際医療福祉大学）「APDとDead Region：聴力検査異常なしは本当に問題ないと言ってよいのか」
4. 神谷 哲司先生（東北大学）「家族・保護者支援のための背景理解」
5. 柴 玲子先生 「学齢期児童の言語機能評価の在り方—個別指導計画や個別教育支援計画に活用するために—」
6. 東川 健先生（横浜市西部療育センター）「言語発達遅滞検査（S-S法）と生活面への活用の基礎」

*ランチョンセミナーは1日目・2日目それぞれ3つ開催します。

【モーニングセミナー】

モーニングセミナーの主眼は「いまさら聞けない基礎の基礎」です。学校や病院などで最低限度抑えておきたい、かつ明日すぐに活用できる知識とスキルの習得を目指します。3人の業界を牽引する三人の先生に講師を引き受けていただきました。

1. 大槻 美佳先生（北海道大学）：高次脳機能障害関連
2. 奥村 智人先生（大阪医科大学LDセンター）：学習障害関連
3. 川合 紀宗先生（広島大学）：吃音関連

【シンポジウム】

1. 学習言語を支援する

【話題提供】

高橋 知音先生（信州大学）「大学生の読み書き困難の評価と支援」

松崎 泰先生（東北大学加齢医学研究所）「生活習慣や学習環境と学習支援」

加藤 哲則先生（愛媛大学）「聴覚障害児童・生徒の学習言語の支援」

川崎 聡大（東北大学）「インクルーシブ教育の視点から読み書き困難の支援を再考する」

司会：石坂 郁代先生（北里大学）

指定討論：加藤 醇子先生（日本ディスレクシア協会）

*特に高橋先生からは大学生のための読み書き支援の画期的なツールの紹介がなされます。大学生に必要な読み書きとは、に特化して構築されるものです。

2. ナラティブを再考する

【話題提供】

若島 孔文先生（東北大学）「臨床心理学の立場から」

やまだ ようこ先生（立命館大学・京都大学名誉教授）「発達心理学の立場から」

イ ヒボク先生（国立特殊教育総合研究所）「発達障害学の立場から」

指定討論：藤野 博先生（東京学芸大学）

司会：大伴 潔先生（東京学芸大学）

* 「ナラティブ」は言語だけでなく発達心理学や臨床心理学でも研究の対象となり、かつ広くセラピーに取り入れられています（もちろん目的は異なりますが）。言語障害臨床においても昨今さまざまな「ナラティブセラピー」が提案されております。そこで今回は、「ナラティブ」とは何か、原点に立ち返って様々な領域から見識を深めようということを目的としています。